

- ・一般質問の記事：質問した議員が1300文字程度に要約して執筆したものです。原文を尊重して掲載しています。
- ・発言が「～である」調に記載されていますが、質問・答弁共に「です・ます」調で発言されています。
- ・「会議録」は南関町図書館および町ホームページで閲覧できます。6月議会分は9月に公開予定。

『六次産業の推進と課題について』

『南関町加工品開発センターの現状と今後について』

六次産業の推進と課題について

六次産業の推進に向けて具体的な協同プロジェクトや意見交換の場はどのように整備されているか。また、地域の声を反映した施策、策定や改善策の検討が行われているか尋ねる。

（町長） 昨年まではコロナ禍の中、実施できていなかった、ふるさと応援団通常総会が今年度開催され、ふるさと納税返礼品参加事業者との意見交換の場を設ける計画をされている。また、地場産品の振興を図るため、生産性の向上及び地域の特性を生かした加工品等の開発、広報誌等による六次産業化の推進に向けた啓発、専門アドバイザー等活用支援事業への取り組みを検討し、関係機関と連携した継続的な事業展開を図る。

六次産業が進まないのは、費用以上に継続する意欲が必要という前提があると思うが。補助金などの情報が少ない。また、手続きなどが煩雑と思う。申請書の簡素化も求められている。地域の農産物や特産品に関するブランド化や地域固有の商品開発が進んでいるか教えて頂きたい。

（経済課長） 町の特産品物を利用した新たな加工という事ですが、今年度は、らっきょ漬け、栗の甘露煮、柿チップなどを新たにに取り組む事とされている。それから町に合う作物という流れになるが、南関町で色々な作物、素材があるが、これといっ

た作物の集団化はできていない。産地化するためには、集団化が必要と考えており、現状としては、苺・きゅうり・トマト・米・柑橘類・栗などが産物として挙げられると思っている。



南関町加工品開発センターの現状と今後について

南関町加工品開発センターの利用について、どう農産物の利用があるのか。また、新しい地域商品の特産物を使った取り組みについて尋ねる。

（町長） 加工品開発センターは、開館当初より指定管理者として運営いただいている南関ふるさと応援団により、一般の施設利用者への機械操作指導及びサポート、農林産物の一次加工技術向上のための開発・品質向上研究など六次産業化への協力・情報共有のサポート等を実施いただきながら、町の地場産品の持つ価値への再認識・創造に寄与いただいている。現在、町の農林産物を利用した、タケノコの水煮、冷凍むき栗が人気商品であり今年度は、らっきょ漬け、栗の甘露煮、柿の加工など新たな加工品開発に取り組む。町としても第一産業の活性化に向け、引き続き加工技術等の指導や農業者とタ



広報常任副委員長
総務産業常任委員

矢野修一

イアアップした加工品等を支援していきたいと考えている。

地域資源の活用や観光客の誘致に向けた戦略等はあるのか。六次産業の専門家を一定期間でも入れて商品開発を後押しぐらいやっていただきたい。先ほど町長からの答弁の中でアドバイザーということで言われたが、具体的に尋ねる。

（経済課長） 専門的な知識を持った人材を登録することにより、販路の拡大を図っていく必要があると考える。専門家の雇用については現在、検討が必要だと思うが、財団法人熊本サポートセンターが相談窓口となり、改善意欲の高い事業者に対し、専門家を派遣し、経営改善に向けた計画の策定及びその実行に対して積極的にそういった制度を活用していきたいと考えている。





文教厚生常任委員

井下忠俊

南関町は中山間地にあり、家屋に隣接している急傾斜地は土砂災害の危険性を含んでいるが、この改良にあたっての補助金の出所は県、町どちらか。

（総務課長） 県の事業に頼っている。

家屋数・幅面の長さ等、基準があるのは分かる。また地権者がおられる場合も、個人での対応というのも理解できる。しかし、高齢化社会の中、いくら地権者であろうともどうにもならない事もある。そこで、一人でも住民の方の不安が取り除かれるのであれば、補助を目的とした南関町での新たな条例を制定する事も検討すべきである。

（総務課長） 町の一般財源を活用するのであれば、十分な検討をしていく必要はあると考える。

町で行われている防災会議には、小中学校や保育園の関係者の参加はあるのか。

（総務課長） 学校関係者の参加は無い。

学校・保育園の敷地状況はそれぞれ違う。災害時の対応の取り方により、過去には事故に繋がるような事も起こっている。今後、町も含めて対策について考える必要があると思う。

『災害時における南関町の現状と対策』

避難所についてだが、町管理の住宅の空き数は。

（総務課長） 現在35戸が空いている。

その数については、何時必要になるかわからないので、随時把握しておいてもらいたい。それと同時に、いつでも住めるようにしておく事は、管理者としての務めである。

福祉避難所について

福祉避難所はどのタイミングで開設されるのか。

（総務課長） 福祉避難所として指定している交流センターが、一番に開かれる。その後各地区の自主避難所の順番になる。

福祉避難所というからには、避難時にいて不自由さを持たれる方も多いと思う。他に福祉避難所として協定を結ばれているところがあれば、交流センターと同時に開設すべきである。また、開設要請前に避難されてきた方達に対する経費の負担は誰が行うのか。

（福祉課長） お互いの話し合いになると思うが、原則として町が負担する事になっている。

利用出来るのは、介護の認定者だけか。

（総務課長） 規定はないので、近所の方でも避難場所として利用できる。

災害時における要援護者支援の登録は何名か。

（総務課長） 現在 28 名である。

漏れがある場合もある。また、高齢者になれば状況の変化も多いので、常に状況の確認は必要である。

（総務課長） 民生委員会場で呼びかけを行っている。また、台風や大雨の時には確認を行い、社協と福祉系において、避難についての問い合わせを随時行っている。

ペットとの同行避難について

災害避難時に、今問題となっているペットとの同行避難について南関町での対応はどうなっているのか。

（総務課長） 現在、南関町にはペットと一緒に避難できる施設はないが、うから館の改修に伴い、軒先や駐車場の利用という事では、検討出来るのではと考える。

今はペットも家族同然に考えられている方も多く、動物愛護の観点からだけでなく、避難時における心のケアという観点からも重要とされている。逆に動物が苦手とされる方もおられる。双方の歩み寄りが大事になってくると思われるが、和木町に二カ所、玉東町に一カ所ある。南関町も検討すべきである。

まとめ

災害は起こらないのが一番だが、無いという保証は一つもなく、また無くすことも出来ない。しかし、被災者・被害を少なくする事は出来る。住民の方の生命・財産を守るために、課を跨いでの更なる検討・対策を申し入れたい。

『旧石井家住宅案件が 進展していかない理由について』

進展していかないのは何故か。

(町長) 解体をせず改修費を抑える方向性で進めたいと整備案を出したが、活用面に対する指摘があり、今後は理解の得られる活用案を提示していきたい。

保存重視で、町民に対し費用対効果の説得力がない。改めてこの事業の目的を尋ねる。

(教育課長) ふるさとの偉人を記憶、理解し、町民のふるさとを愛する気持ちを育むよりどころとして、未来を担う人材教育及び町内外に交流人口の増加を図ることを目的として事業を進めている。

生まれ育った子どもたちへ郷土教育とキャリア教育、また訪れる人を増やし町の活性化を図る、この二つの目的に対して、より高い効果を出すためにどんな検討がされているのか。高い効果を出すには人に感動を与えること、最近話題になる「聖地巡礼の風景地」や熊本県庁前にある「ワンピースの銅像」同様に「境港の水木しげるロード」など成功事例があるが、人をワクワクさせる議論はされているのか。

(教育課長) 偉人漫画「北原白秋物語 二つのふるさと」は、小中学校の全児童生徒に配布をし教育資料として活用されている。



その偉人漫画のように、白秋生家建物だけの「点」で考えるのではなく、白秋と関わりある地域として「面」での展開活用を考えたが効果は高まるのではないかと。

白秋が南関町を読んだ詩は60句あり、地域おこし協力隊が進めているフットパスと絡めて遊歩道に、平面の歌碑でなく「立体的な銅像」を設けたら「映え写真」が撮れて惹きつける力がある。

聖地巡礼的な観点では、若者が喜びそうなブラウザゲームに「文豪とアルケミスト」がある。この中に白秋が登場するが検討したことはあるか。

(教育課長) 確認したら、美形の白秋が登場していた。柳川市では「北原白秋没後80年特別企画展」でコラボレーション的イベントを開催されていた。キャラクターの等身大パネルやコラボグッズ販売等もあり、こういった事例についても南関町にどう活用として生かせるかは検討していきたい。



議会運営委員長
文教厚生常任委員

中村正雄

そういった活用面を考え進めるには、財源の確保がないと進まない。現在の案は、母屋内で展示会を開催できるように、内装補修補強に7,000万円かけ、開館時の人件費管理費に10年間分2,000万円が計上されている。室内での展示会を止めたら、大幅なコスト低減が、改修費は半分、人件費管理費は無くなるのではないかと。この分を活用策の財源に回したらどうか。

それからもう一つ重要なポイントは、一部の地域や一小校区のためでなく、南関町民全体を巻き込んでいくことが、この事業を進めていく2つの要因と考えるが、如何か。

(教育課長) 南関町全体で漫画の活用を進め、子どもたちの意識が変わりつつある実感している。第二小学校区でふるさとマップが作成された。町全体に広げていければと考えている。

(町長) うから館の名称は白秋の歌で「民衆」という意味。来年10月8日の新うから館オープニングで町内の小中学生全員を巻き込んでオープニングイベントを計画している。白秋と結びつけながら町全部の子どもたちだけでなく、いろんな年代の方も新うから館と共に白秋も巻き込んでいきたい。



総務産業常任委員

境田敏高

境田「タクシー料金助成事業の見直しは」 まちづくり課長「検討の必要がある」

使って近所の方を送迎できるような取組の事業を広く周知し、立ち上げたいという住民の方が、団体でおられる場合に、補助を出し地域の活性化につながると考えている。



わが町ではおおむね65歳以上で運転免許証を持っていない世帯等には、町内のタクシーを利用した場合、料金半額助成、月6回まで利用できるタクシー料金助成事業が行われている。しかし家族に免許保持者がいても町外の医療機関に連れていけない、送れない現状がある。

タクシー料金助成事業の見直しも考慮すべきであるが、いかがか。

（まちづくり課長） 町内全域と玉名市、和水町、荒尾市、山鹿市、大牟田市、みやま市の医療機関等へ町内のタクシーを利用した場合に、2分の1を助成する事業である。

家族に免許を持っている人がいても、必要なときに送迎ができない場合も多々ある。タクシー助成事業については、見直しも含め、今後の課題として検討の必要がある。

国はタクシー会社管理の下、自家用車を活用するライドシェアを認めているが個人でも運用できる法制度の検討を進めるとの方針を決めている。わが町も住民の移動の解決策の一つとして取り組みば、わが町の経済効果、活性化にもなる。そこで対応を尋ねる。

（まちづくり課長） 今年度、新たな取組として住民の方が自家用車を

委託金は公金である

年間で捕獲数の多い方で、A氏は令和3年度110頭、令和4年度162頭、令和5年度169頭、B氏で令和3年度83頭、令和4年度153頭、令和5年度152頭、C氏で令和3年度51頭、令和4年度60頭、令和5年度71頭とのことであるが、名前は公表できないのか。

委託金は公金である。捕獲等の方々は鳥獣被害対策に並々ならぬ活動されている。日頃の活動に報いるためにも公表し、町で表彰すべきと思うが尋ねる。

（経済課長） 個人の不利益を生じる可能性があるため公表はできない。また表彰についても、捕獲隊は町が委託している業務であるため表彰には該当しない。

捕獲従事者には捕獲金の増額を図るべきと思うがいかがか。

（経済課長） 増額については、近隣市町の動向を確認しながら検討に入りたい。

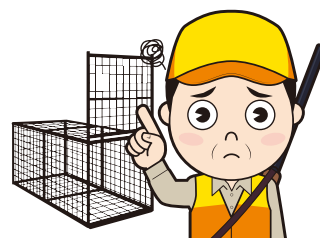
「役員体制、毎年の収支報告、定例の会議や総会などは開催されているのか。捕獲隊の存在そのものが、あまり知らされていないのは問題で総会などを開催することが、疑問を払拭させることと思う。」と捕獲隊の中から意見が出ている。どのように把握されているか。

（経済課長） 役員体制は、隊長1名、理事4名の役員体制となっている。会議については毎年1回の理事会が開催される。内容については把握していない。

まとめ

高齢運転者は身体機能などの低下から死亡事故などを起こす危険性が高い状況にある。安心と安らぎをあたえるためにも時代に応じた移動手段に対応していくべきである。

イノシシなどの有害鳥獣捕獲にはなくてはならない捕獲隊であるが、近年、全国でハンターの高齢化で以前より捕獲活動ができない現状がある。解決策の一つとして、荒れた農地を地域で共同管理することでイノシシを近づけない取組を推進し、あらたな支援対策を打ち出し捕獲に頼らない被害防止も今以上に進めるべきである。



『小中学生の学力と町の教育方針について』
『シルバー人材センターについて』『国道443号の通学路について』



文教厚生常任副委員長
広報常任委員
議会運営委員

福山 美佳

教育長の今後の教育方針について

(教育長) 一言で申し上げると「教育の町、南関」を創ること。南関町教育大綱にある教育理念『町づくりは人づくりから』の学校教育・生涯学習・文化振興の具現化を進め、町内外から認められ、目指される教育行政を進めていきたい。

そのために、次の2点を約束する。

1点目、学校の現場、町民の皆さまが活動される現場に可能な限り足を運び一緒に活動する中で子どもたちや、町民の方々の声を伺う。その声を、教育行政に生かしていく。

2点目、南関町の教育活動の様子をこれまで以上にホームページ等を活用し情報発信していく。そして、町民の皆さまからのご意見等を得やすい環境づくりを行っていく。



町の小中学生の県や管内での学力の状況について

(教育長) 「全国学力学習状況調査」の結果は、小学校では、令和4年度は、国語・算数ともに国の平均を下回り、令和5年度は、国語は下回り、算数は全国を上回った。中学校では、令和4年度は、国語・数学・理科の全てで国の平均を上回り、令和5年度は、全てで下回った。

「県の学力・学習状況調査」の結

果は、小学校では、令和5年度にかけて県を上回る教科が減少し、県との差が開きつつある。中学校では、県を上回る教科数が増加している。

玉名荒尾管内での令和5年度の南関町の状況は、小学校では、管内平均を下回り、学校ごとの差も見られた。中学校では、1年生で管内平均と同じ、2年生は管内をすべて上回る結果。

学力の保持、向上を図るために町が取り組んでいること

(教育長) デジタルとアナログの融合による児童生徒が主体となる、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の共通実践を各学校にお願いしている。毎年1校を研究指定校に定め、その成果を町内で共有している。さらに、指導主事が各学校に巡回し、授業参観を通して、授業改善に取り組む、4つの小学校が等しく学力の向上につながることをねらっている。



シルバー人材センターについて

現状の課題と今後の運営について

(町長) 特に60歳代の会員の確保が現在の課題となっている。今後も継続して会員確保に取り組んでいただき、町としても支援を行っていく必要がある。

また、シルバー人材センターは、

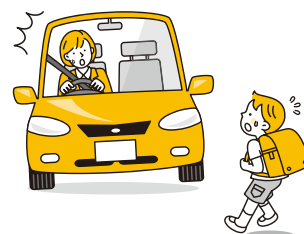
労働を通して高齢者社会参加や地域貢献、生きがいづくり、健康づくりに貢献している重要な機関であると認識している。今後の運営については、関係機関とも相談のうえ、助言を行っていききたいと考えている。

国道443号の通学路について

現在、三小前で交通事故が多発しているが町の考えは

(町長) 通学路の安全確保を推進するため「南関町通学路安全推進会議」並びに「南関町交通安全対策協議会」を毎年開催し、現地にて通学路の危険箇所の把握を行い要望及び改善を行っている。また、関係市町でつくる「道路整備促進期成会」、「町村議会議長会」並びに「町独自の要望」として要望活動を実施している。

今後も、県に対し早期の事業完遂に向けた様々な要望等を行い、また、道路整備に必要な用地の確保等全面的に協力しながら、地域住民並びに児童生徒の安全・安心のため、継続的な活動を行っていく。



南関町商工会女性部

& 広報委員



議員 南関町商工会女性部とは？

南関町商工会の親組織の下に青年部と女性部があり、女性部は現在 26 名の部員数です。また、熊本県商工会女性部連合会にも所属しており、商工会の事業を積極的に推進するとともに、商工業に携わる女性としての経営知識、教養を深め、地域の商工業の発展と地域社会への貢献活動を行っています。

福岡県と熊本県を結ぶ南関町で、合言葉「明るく、楽しく、美しく」を実践すること、関所の里「南関町」と「南関町商工会」をどんどんPRすることに力を注いでいます。

議員 特徴的な活動を教えてください。

- 社会貢献活動として「町を花いっぱい！」を目標に、年に数回参加者を募り、花の寄せ植え会を行っています。それぞれにアレンジした鉢植えの花を持ち帰り喜んでもらっています。



- 地域の福祉事業として、毎年、各小学校の周りなど、ごみ拾いの清掃活動を行っています。



- 今年は「台北・ソウル・上海の方々に販路開拓しませんか。」ということで、南関町商工会員事業所で販売する商品をインバウンドや海外展開するため、九州佐賀国際空港2F イベントスペースを利用し、PR する催しを行う予定です。8月29日(木)、30日(金)の2日間。

- 昔の活動ですが、町主催の小学生・老人会によるオセロ大会のボランティア活動として、南関町の代表する郷土料理を食べ郷土の良さを知ってもらいたいとの意向で南関そーめんのふしにあんこをからめた『あれかけ』と夏野菜のカレーを提供しました。約100名の参加があり、大変喜ばれました。



議員

日頃の活動で大切にしていることは何ですか。

- 上部組織とのつながりも大事で、上部関連団体や関連団体等主催の会議、研修会等にも積極的に参加しております。

今年も玉名地区合同講習会、玉名地区視察研修、県女連リーダー研修、商工会女性部全国大会（三重県津市）などあります。



- 部員間のコミュニケーションを大切にしております。社会貢献活動やレクリエーション大会やミニバレー大会などで交流しております。

議員

現在組織が抱える課題などありますか。

昭和46年4月17日設立で当初は40名の部員がいました。

地域振興として町や商工会事業への協力ということで、ぎおんさん、関所まつり、梅・陶器まつり、TMO事業など、女性部として積極的に参加していましたが、現在はできていない現状です。

コロナ禍でのイベント中止の影響を引きずっていると思います。時代の移り変わり（事業者の高齢化、人口減少）とともに廃業される方も多く、会員増強が課題です。

また、ふれんど共済、貯蓄共済の加入推進による財源確保に苦労しています。

いろいろ課題はありますが、今年度は佐賀空港と柳川への視察研修などを計画し、活発な活動を再開したい。



南関町商工会女性部のみなさん

前列左から

田 端 絹 子 さん
橋 本 弘 子 さん（部長）
田 口 由美子 さん
猿 渡 成 子 さん

後列左から

良 田 真 弓 さん
岳 美由紀 さん
嶋 村 美 仁 さん
橋 本 枝里子 さん

写っておられない部員

井下 妙子 さん	立石 葉子 さん
坂井理知子 さん	道山 浪子 さん
福山 美佳 さん	岡村 明子 さん
岩上 未散 さん	後藤 美枝 さん
花見 洋子 さん	野田 珠代 さん
片山 悦子 さん	越智きぬ子 さん
北原 直美 さん	永松みはる さん
國崎 博美 さん	古賀 博子 さん
山口 純子 さん	椋嶋 綾子 さん



合言葉「明るく、楽しく、美しく」、大切なことは「部員間のコミュニケーション」という部長さんの力強い言葉が印象的でした。

いろいろ課題は多いと思いますが、今後も女性の視点で、南関町を盛り上げてほしいと思いました。

広報常任委員会

南関中3年 ^{た なか みつ き} 田中 光輝 さん

私が考える、南関町の未来



南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

僕はこれからの南関町を「環境や文化を継承していく町」にしていきたいです。僕たちが暮らしている南関町の良さは、夏にはホタルが飛び交うほどの川のきれいさや、学校を取り囲むようにして竹林が立っているすばらしい自然の中で毎日過ごせていることです。文化の面では、ぎおんさんや梅祭りが開催されていることで、代々文化が引き継がれていることです。加えて、現在南関第二小学校四年生によってホタル音頭が踊られています。これも南関町の大事な文化の一つだと思います。

なぜ僕が、環境や文化を継承していきたいかという、南関町では年々子どもの数が減ってきており、引き継いでいくことが困難に見えるからです。そのため今後やっていきたいことは、僕たちが町の行事の運営に参加し、大人になっても南関町に住み続けていくことです。

現在の日本は少子高齢化により、働く人が減り、年金受給者が多くなっています。今、南関町で暮らしている子どもが大人になって町外に出ていくと、納税が減ります。また、行事の運営などを学ぶことによって、文化が継承できます。

南関中の三年生は、地域貢献活動を計画しています。その中で僕は地域清掃活動に行きます。そこでは、官軍墓地の清掃を行います。このことは、地域の環境を守り、残されている歴史を守り続けることになります。中学生にできることは、このようにして自分たちで、住み続けられる南関町をつくっていくことです。これからも、環境を守り、文化が継承され、住み続けられる南関町をつくってきたいと思います。

議会傍聴しませんか

6月定例議会の傍聴人数はのべ21人でした。

4日：12人、5日：7人、7日：2人

定例議会は、年に4回・・・3月、6月、9月、12月に開催。 ●どなたでも傍聴できます。 ●定員 30人

議会日誌

■4月

- 4月11日(木) 文教厚生常任委員会
- 4月17日(水) 総務産業常任委員会、議会運営委員会
- 4月18日(木) 全員協議会、広報常任委員会
- 4月23日(火) 広報常任委員会
- 4月30日(火) 広報常任委員会

■5月

- 5月9日(木) 議会運営委員会視察
～10日(金) (合志市・古賀市)
- 5月13日(月) 文教厚生常任委員会
- 5月14日(火) 全員協議会視察(嘉麻市)
- 5月15日(水) 総務産業常任委員会
- 5月16日(木) 全員協議会
- 5月24日(金) 議会運営委員会

■6月

- 6月4日(火) 第2回定例会
- 6月5日(水) 第2回定例会／全員協議会
総務産業常任委員会
文教厚生常任委員会
広報常任委員会、議会運営委員会
- 6月7日(金) 第2回定例会

ティーブレイク



4月に小学2年生になった孫娘が補助輪なしで自転車に乗ることができるようになりました。あんなに怖がっていた自転車の練習も今となっては「おじいちゃん、公園に行こう、自転車に乗ろう」と言ってくるほど夢中の様子。



▶新しいことや難しいことにチャレンジするのは不安だったりするものですが、できるようになると途端に面白く感じるのは、大人も子どもも一緒のよう。

▶孫の成長を通じて、いろいろなことに気付かされ、喜びとともに自分も育ててもらっているんだなと感じたときでした。

(矢野修一)

□発行責任者

議長 立山 秀喜

□編集(広報常任委員会)

委員長 伊藤 博長

委員 山口 純子

副委員長 矢野 修一

委員 福山 美佳